I.　運営委員会報告

以下の日程でメール審議を実施した.

1. ［H29-001: 採決・報告］(1: 採決）副会長の人事について審議し，崎尾　均氏（運営委員会 3 号委員）への副委員長の委嘱が承認された.（2: 採決）電子印鑑の導入にかかる事務局内規の改定について審議し，下記第 8 条 5 項の追加が承認された（審議期間 2017 年 5 月 8 日から 5 月 17 日).

   第 8 条
   5　電磁的に記録した公印印影（電子印鑑）の複写物を，公印の押印に代えることができる.

   (3: 報告）4 月 28 日に本会会員故亀井裕幸氏より本会に 500 万円のご寄付をいただきました（報告日 2017 年 5 月 8 日).

2. ［H29-002: 意見聴取］日本学術協力財団より当会へ援助（年 50,000 円）の依頼があったことについて意見聴取を行った（審議期間 2017 年 6 月 28 日から 7 月 7 日).
3. ［H29-003: 採決］平成 29 年度植生学会各賞の候補者の推薦について審議し，受賞者が決定した（審議期間 2017 年 9 月 13 日から 9 月 22 日).
4. ［H29-004: 採決］寄付金の使用に関する申し合わせについて審議し承認された（別掲 1，審議期間 2017 年 11 月 3 日から 11 月 25 日).

2017 年 10 月 21 日に沖縄県男女共同参画センターにおいて定例の運営委員会を開催した．審議事項は以下の通り.

1. 2016 年度収支決算（案）について審議した.
2. 2017 年度収支予算（案）について審議した.
3. 植生学会運営委員会規則の改定（第 8 条 1 項 4 号，同 4 項の修正及び附則の追加）について審議した.
4. 日本学術協力団体への援助（年 50,000 円）について審議した.
5. 故亀井裕幸氏のご遺族からの寄付金の使途について審議した.
6. 植生情報のオンライン上での公開に関する申し合わせについて審議し，承認された（別掲 2).
7. 第 23 回大会（2018 年）の開催地について審議し，承認された.

別掲 1.　故亀井裕幸氏からの寄付金の使用に関する申し合わせ

2017 年 11 月 25 日　制定

（趣旨）
第 1 条　この規則は，植生学会会則第 26 条及び植生学会事務局内規第 5 条 3 号に基づき，本会会員故亀井裕幸氏からの（以降，本寄付金とする）の使用に関し必要な事項を定める.
（寄付金の使用目的）
第 2 条　本寄付金は本会が実施する以下の事業に使用する.
（1）　本会の将来を担う若手後継者の育成に関する事業
（2）　その他，植生学の発展のために運営委員会が必要と認めた非営利事業
（予算執行計画の作成）
第 3 条　会長は本寄付金の予算執行計画を作成し，運営委員会の承認を得なければならない.
2　予算執行計画は事業年度ごとに見直しを実施する.
（年度予算・決算）
第 4 条　本寄付金の年度会計に関する手続きは会則第 26 条に準ずる.
（雑則）
第 5 条　本規則の変更は運営委員会の決議による.

附則　2017 年 11 月 25 日制定
1.　この規定は 2017 年 11 月 25 日から施行する.

別掲 2.　植生情報のオンライン上での公開に関する申し合わせ

2017 年 10 月 21 日　制定

（趣旨）
第 1 条　この規則は，植生学会編集委員会規則第 10 条に基づき，植生情報のオンライン上での公開に関し必要な事項を定める.
（公開の範囲）
第 2 条　次の各号に該当する植生情報の全文を公開する.
（1）　本会が著作権を有するもの（植生情報 16 号以降）
（2）　発行から 1 年が経過したもの
（公開基盤）
第 3 条　植生情報の公開基盤は本会のホームページとする.

（非公開期間の短縮）
第 4 条　次の各号に該当する記事について，運営委員会の承認を経たものは，非公開期間を短縮することができる．
（1）　非公開期間の短縮が本会および公共の利益に資するもの
（2）　編集委員長が必要と認めたもの
（雑則）
第 5 条　本規則の変更は運営委員会の決議による．

附則　2017 年 10 月 21 日制定
1.　この規定は 2017 年 10 月 22 日から施行する．

II.　編集委員会報告

以下の日程でメール審議を実施した．

1.　［H29-1: 採決］編集委員会内規・審査業務マニュアル・申し合わせ書の改定について審議し，承認された（審議期間 2017 年 10 月 1 日から 10 月 10 日）．

2017 年 10 月 21 日に沖縄県男女共同参画センターにおいて定例の編集委員会を開催した．審議事項は以下の通り．

1.　植生情報の公開のあり方について審議し，以下の内容で運営委員会に諮ることが承認された．
　a.　公開方法: 植生学会 HP 上で公開する．
　b.　公開条件: 発行後 1 年間の非公開期間を設ける．ただし，① 非公開期間の短縮が本会および公共の利益に資するもの，② 編集委員長が認めたもの，に該当する記事について，運営委員会の承認を経たものは非公開期間を短縮することができる．
　c.　公開範囲: 16 号以降の全文を公開する．
　d.　申し合わせ書の作成: a，b，c の内容を記した申し合わせ書を作成する．
2.　編集委員会の審査業務マニュアルの改訂（［H29-1］後の再改定）について審議し，承認された．

III.　企画委員会報告

2017 年 10 月 21 日に沖縄県男女共同参画センターにおいて定例の企画委員会を開催した．審議事項は以下の通り．

1.　次年度から，大会時に「植生学会トレーニングスクール I」，9 ～ 10 月に新潟大学佐渡ステーションでの「植生学会トレーニングスクール II 基礎から学ぶ森林調査」（植生学会と新潟大学の共済）を実施することが承認された．
2.　東日本大震災植生モニタリング調査プロジェクトを 2017 年度以降も継続し，若手研究者の協力を得ながら，中 / 長期的な活動を行うことが承認された．
3.　2018 年日本生態学会札幌大会の自由集会で，前迫企画委員長を責任者とする群落談話会「断片化した植物集団の遺伝的地域性と多様性の保全」を企画することが承認された．
4.　日本自然保護協会の PN ファンドに 2 年間（2017 年 10 月 ～ 2019 年 9 月）の研究助成が採択され「全国シカ影響調査の 10 年経過後の現状把握調査」を実施することが承認された．
5.　日本の多様な自然を植生研究者が研究データを示しながら，わかりやすく解説する入門書を 3 年以内に刊行することについて，調整を進めることが承認された．

IV.　表彰委員会報告

以下の日程でメール審議を実施した．

1.　［H29-1: 採決］平成 29 年度学会賞 1 名，奨励賞 1 名，論文賞 1 件の受賞候補者について審議し，承認された（審議期間 2017 年 8 月から 9 月 11 日）．

2017 年 10 月 22 日に沖縄県男女共同参画センターにおいて研究発表賞の審査を実施し，口頭発表賞 1 件，ポスター発表賞 1 件を決定した．

V.　2017 年度総会報告

2017 年 12 月 7 日（木）から 12 月 16 日（土）の日程で，植生学会会則第 8 条 3 項に基づく電磁的方法による臨時総会を開催し，以下の事項が報告または承認された．

A.　報告事項
1.　学会事務局報告
2017 年 10 月 10 日現在の会員数（正会員 531 名，団体会員 11 団体，賛助会員 1 団体）が報告された．
2.　各種委員会報告
上記 I ～ V の運営委員会，各種委員会の審議事項が報告された．
3.　その他
第 23 回大会（栃木県）の運営代表者として西尾 孝佳氏より，多数の参加が要請された .

B.　承認事項
1.　2016 年度収支決算（別掲 3）について
2.　2017 年度予算案（別掲 4，5）について
3.　植生学会運営委員会規則の改定（別掲 6）について

別掲 3.　植生学会 2016 年度一般会計収支決算　（単位: 円）

収入の部	予算	決算	差異	備考
前期繰り越し	3,265,386	3,265,386	0	
会費	3,218,000	3,142,000*	−76,000	*一般 418，学生 28，団体 9，賛助 1
バックナンバー売り上げ	20,000	73,180	53,180	
雑収入	500,000	297,936	−202,064	誤送金を含む
		（30,536）		著作権使用料など
		（248,400）		別刷・超過ページなど
利息	500	8	−492	笹氣: 2，比嘉: 6
計	7,003,886	6,778,510	−225,376	
支出の部	**予算**	**決算**	**差異**	**備考**
植生学会誌刊行費	2,000,000	1,609,587*	390,413	*第 33 巻 1 号・2 号（別刷印刷費を除く）
植生情報刊行費	500,000	756,000*	−256,000	*第 20 号
学会事務局経費	1,100,000	986,933	113,067	学会事務局・会計事務局・選挙
編集委員会経費	40,000	39,002	998	
企画委員会経費	400,000	0	400,000	
表彰委員会経費	50,000	45,332	4,668	
国際学術発表助成金	0	50,000	−50,000	
大会補助費	350,000	350,000*	0	*第 21 回大会
予備費	2,563,886	59,940	2,503,946	別刷・超過ページなど
計	7,003,886	3,896,794	3,107,092	
収支差額（繰り越し）	0	2,881,716		

別掲 4.　植生学会 2017 年度一般会計収支予算　（単位: 円）

収入の部	2017 年度	2016 年度	差異	備考
前期繰り越し	2,881,716	3,265,386	−383,670	
会費	3,174,000*	3,218,000	−44,000	*一般 465，学生 66, 団体 11，賛助 1（10 月 18 日現在）
バックナンバー売り上げ	20,000	20,000	0	
雑収入	500,000	500,000	0	
利息	500	500	0	
計	6,576,216	7,003,886	−427,670	
支出の部	**2017 年度**	**2016 年度**	**差異**	**備考**
植生学会誌刊行費　1,000,000 円× 2 回	2,000,000*	2,000,000	0	*第 34 巻 1 号・2 号
植生情報刊行費　400,000 円× 1 回	400,000*	500,000	−100,000	*第 21 号
学会事務局経費	900,000	1,100,000	−200,000	
編集委員会経費	40,000	40,000	0	
企画委員会経費	400,000	400,000	0	
表彰委員会経費	50,000	50,000	0	
大会補助費	350,000*	350,000	0	*第 22 回大会
予備費	2,436,210	2,563,886	−127,670	
計	6,576,216	7,003,886	−427,670	

別掲 5.　植生学会 2017 年度特別会計収支予算　（単位: 円）

収入の部	2017 年度	備考
寄付金	5,000,000	2017 年 4 月 28 日付けで故亀井裕幸氏からの寄付
利息	100	
計	5,000,100	
支出の部	**2017 年度**	**備考**
国際学術発表助成金	50,000	2016 年度は一般会計で支出していたが 17 年度から特別会計に移動
予備費	4,950,100	
計	5,000,100	

別掲 6.　植生学会運営委員会規則　新旧対照表

新	旧
植生学会運営委員会規則 2017 年 12 月 16 日　改定	植生学会運営委員会規則 2016 年 10 月 23 日　改定
第 1 条～第 7 条　〈省略〉	第 1 条～第 7 条　〈省略〉
（専門委員会） 第 8 条　会の運営を円滑に実施するために，専門委員会を設置する． （1）編集委員会 （2）企画委員会 （3）表彰委員会 （4）大会支援委員会 2　〈省略〉 3　〈省略〉 4　専門委員会委員長は，運営委員の中から会長が選任し，運営委員会に諮って委嘱する．副委員長は，運営委員の中から委員長が選任する．ただし，大会支援委員長は会長が，同副委員長は幹事長が兼務する． 5　〈省略〉	（専門委員会） 第 8 条　会の運営を円滑に実施するために，専門委員会を設置する． （1）編集委員会 （2）企画委員会 （3）表彰委員会 （4）大会企画委員会 2　〈省略〉 3　〈省略〉 4　専門委員会委員長は，運営委員の中から会長が選任し，運営委員会に諮って委嘱する．副委員長は，運営委員の中から委員長が選任する．ただし，大会企画委員長は会長が，同副委員長は幹事長が兼務する． 5　〈省略〉
第 9 条～第 12 条　〈省略〉	第 9 条～第 12 条　〈省略〉
附則　2015 年 10 月 11 日　制定 1.　植生学会運営委員会設立年月日　1996 年 4 月 1 日 2.　この規定は 2015 年 10 月 12 日から施行する． 附則　2016 年 10 月 23 日　改定 1.　この規定は 2016 年 10 月 24 日から施行する． 附則　2017 年 12 月 16 日　改定 1.　この規定は 2017 年 12 月 17 日から施行する．	附則　2015 年 10 月 11 日　制定 1.　植生学会運営委員会設立年月日　1996 年 4 月 1 日 2.　この規定は 2015 年 10 月 12 日から施行する． 附則　2016 年 10 月 23 日　改定 1.　この規定は 2016 年 10 月 24 日から施行する． （新規） （新規）

VI.　学会賞

2017 年度の学会各賞の受賞者は以下の通り．授与式は 2017 年 10 月 22 日に沖縄県男女共同参画センター「てぃるる」で行われ，石川会長より各受賞者に表彰状と記念品が贈呈された．

学会賞　石田弘明（兵庫県立大学）
奨励賞　石田祐子（長野県環境保全研究所）
論文賞　沖津　進・Pavel Vitalevich KRESTOV・百原　新・中村幸人．ロシア極東沿海地方南部におけるチョウセンヒメバラモミ－チョウセンゴヨウ－落葉広葉樹混交林の土壌乾湿傾度に沿った分布とそれからみた日本列島中部山岳域の植生変遷（植生学会誌第 33 巻 1 号 33-43 頁掲載，2016 年 6 月発行）
研究発表賞

口頭発表賞　設樂拓人（筑波大・生命環境）・石田祐子（長野県環境保全研）・福井俊介（筑波大・生命環境）・上條隆志（筑波大・生命環境）大陸共通種チョウセンミネバリ（*Betula costata*）の本州中部内陸部における分布と群落の位置づけ

ポスター発表賞　松倉百花（宮崎大学農学研究科）・伊藤哲・平田令子（宮崎大学）・Hagus Tarno・Karuniawan Puji wicakusono・Arifin Noor（ブラウィジャヤ大学）熱帯のパッチモザイク景観における植物種多様性への林縁効果

VII. 植生学会第 22 回大会報告

植生学会第 22 回大会（大会実行委員長: 谷口真吾）が，2017 年 10 月 21 日～ 23 日にかけて下記日程で沖縄県男女共同参画センター「てぃるる」および沖縄県国頭郡国頭村にて開催された．一般講演では口頭 18 題，ポスター 39 題の発表申し込みがあった．参加者は事前申込者 100 名，当日参加者 10 名の計 110 名であった．

10 月 21 日　各種専門委員会・運営委員会・公開シンポジウム

10 月 22 日　一般講演（口頭発表，ポスター発表），学会賞各賞授与式，総会，学会賞受賞者講演，エクスカーション説明会，懇親会

10 月 23 日　エクスカーション（沖縄県国頭郡国頭村）

一般講演の申し込みは以下のとおりであった．

〈口頭発表〉

A01　大陸共通種チョウセンミネバリ（*Betula costata*）の本州中部内陸部における分布と群落の位置づけ．設樂拓人（筑波大・生命環境）・石田祐子（長野県環境保全研）・福井俊介（筑波大・生命環境）・上條隆志（筑波大・生命環境）

A02　チョウセンゴヨウの過去の分布変遷と将来の脆弱性評価．福井俊介（筑波大・院・生命環境）・上條隆志・設樂拓人（筑波大・生命環境）・松井哲哉（森林総合研究所）

A03　半自然草原における火入れ後の地温変動および高温が群落に及ぼす影響．増井太樹・津田　智（岐阜大学・流域圏環境科学研究センター）

A04　霧多布湿原の昆布干場表層土砂除去後の植生遷移―湿原植生の復元を目指して―．元廣はるな（北海道大学農学院修士課程）・冨士田裕子（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園）・三木　昇（北ノ森自然伝習所）・河内直子・辻　ねむ（NPO 法人霧多布湿原ナショナルトラスト）

A05　Floristic composition and species diversity of schoolyards in Fuchu city,Tokyo．Nuerbiye MAIMAITI & Masato YOSHIKAWA（Graduate school of agriculture, Tokyo University of Agri. & Tech.）

A06　エゾシカの採食植物・不嗜好植物の現状把握と調査．渡辺智美（北海道大学農学院）・冨士田裕子（北大・FSC・植物園）

A07　シカの採食環境における照葉樹林のギャップ年代と実生の多様性．前迫ゆり（大阪産大院・人間環境）・曳地穂（京大院・農）・神崎　護（京大院・農）・長谷川博幸（株・ジオネット）

A08　モンゴル草原におけるヤギの採食行動．川田清和（筑波大学）・高橋健吾（筑波大学）・ジャムスラン ウンダルマー（モンゴル生命科学大学）

A09　くじゅう火山群坊がツルにおける 10 年間の植生推移．桑原佳子・播磨さおり・足立高行（NPO 法人おおいた生物多様性保全センター）

B01　東日本大震災以降の放棄水田の植生遷移．中村幸人（植物社会学研究会）・大渕香菜子（東京農大・地域環境）

B02　ミカワバイケイソウ，タイプ産地の植生．中西　正（鳳来寺山自然科学博物館）

B03　砂浜海岸エコトーンに留意した大津波と防災事業の砂浜植物に対するインパクト評価．平吹喜彦・佐藤愛実（東北学院大・地域構想），菅野　洋（東北緑化環境保全（株）），岡　浩平（広島工業大・環境），富田瑞樹・原慶太郎（東京情報大・総合情報）

B04　1 地域の気候的な潜在自然植生の推定について．村上雄秀・林　寿則・目黒伸一（国際生態学センター）

B05　河畔林におけるニセアカシアの侵入が種組成に与える影響．後藤智史・島野光司（信州大学理学部）

B06　ボルネオ島における山地林組成について．目黒伸一（国際生態学センター）

B07　モミ－イヌブナ林におけるモミ林冠木の分布と落葉広葉樹との共存．吉田圭一郎（横浜国大・教育）・比嘉基紀（高知大・理工）・石田祐子（長野県環境保全研）・深町篤子（東京水道サービス）・若松伸彦（横浜国大・環境情報）

B08　奄美大島の豪雨土砂災害における植物群落間の影響の違い．小林悟志（人と防災未来センター・研究部）

B09　琉球列島の主要 5 島における樹種多様性パターンの形成機構: 分類学的・系統的・機能的情報を用いた検証．塩野貴之・楠本聞太郎・藤井新次郎・久保田康裕（琉球大・理学部）

〈ポスター発表〉

P01　広島県松永湾における微地形が塩生植物に与える影響．長田美保・岡　浩平（広島工業大学大学院）

P02　兵庫県南あわじ市慶野松原における海岸植物の分布と林床植生の種組成．黒田有寿茂（兵庫県大・自然研）・藤原道郎（兵庫県大院・緑環境景観マネジメント／淡路景観園芸学校）

P03　暖温帯海岸林におけるマツ枯れ跡地に成立した常緑広葉樹林の種組成．中島有美子・吉﨑真司（東京都市大学大学院・環境情報学研究科）

P04　兵庫県淡路島における海岸クロマツ林の林分構造と保全管理．藤原道郎（淡路景観園芸学校／兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科）

P05　群馬県館林市の城沼・多々良沼に生育するハスの品種の形態および遺伝的特性．渡邊幹男（愛教大・生物）・佐野　聖（愛教大・生物）・内田　萌（愛教大・生物）・青

木雅夫（群馬県自然環境調査研究会）

P06　神津島天上山における湿地性絶滅危惧種イズノシマホシクサの生育環境と競合種との関係．村井貴幸（筑波大・生命環境）・荻原麻衣（筑波大・生物資源）・上條隆志（筑波大・生命環境）・田中法生（国立科学博物館）・石田賢也（七島花の会）

P07　全国規模の湿地目録と湿地植物データベースの構築にむけて．李　娥英・冨士田裕子（北大 FSC 植物園）・小林春毅（北海道オホーツク総合振興局林務課）

P08　与那国島における湿地植生の現状と 37 年間の変化．藤村善安・徳江義宏（日本工営中央研究所）

P09　四国北部における湧水湿地植生の成立環境と分布．富田啓介（愛知学院大学）

P10　赤井谷地の自然再生地における植生動態（2）．竹原明秀（岩手大・人文社会）

P11　佐渡中山間地の耕作放棄棚田における地下水位と埋土種子集団の関係．藤彦祐貴・中田　誠（新潟大・院・自然科学）

P12　亜熱帯地域における在来植物群落への遷移を活用した緑化手法の検討．平中晴朗（沖縄環境調査株式会社）・仲村一郎（琉球大学農学部）・斎藤信之・菅野絵理（いであ株式会社）・前里　尚・平野年洋（内閣府沖縄総合事務局）

P13　熱帯のパッチモザイク景観における植物種多様性への林縁効果．松倉百花（宮崎大学農学研究科）・伊藤　哲・平田令子（宮崎大学）・Hagus Tarno・Karuniawan Puji wicakusono・Arifin Noor（ブラウィジャヤ大学）

P14　岩手県八幡平市安比牧野における植生の現状と今後の管理方法の検討．島田直明・越場さゆり・渋谷晃太郎（岩手県大・総合政策）

P15　熊本県阿蘇東外輪山における草原再生に伴う 7 年間での植生の変化．横川昌史（大阪自然史博）・井上雅仁（三瓶自然館）・堤　道生（西日本農研）・白川勝信（高原の自然館）・高橋佳孝（西日本農研）

P16　崩壊法面に自生するモウセンゴケの個体群動態．須貝凌（㈱アクアプラン）・中田　誠（新潟大・農）

P17　都市緑地における花粉症原因イネ科草本の開花フェノロジーと分布．桂　征駿・星野義延（東京農工大学農学府）

P18　地形・地質に対応した土地利用配列と履歴が半自然草原の種組成や種多様性に与える影響．守下克彦・武生雅明（東京農業大学）

P19　モンゴルの放棄農耕地における施肥による植生への影響．髙橋健吾・川田清和（筑波大学）・Tseden-Ish Narangerel・Undarmaa Jamsran（モンゴル生命科学大学）

P20　淡路島の棚田地帯における畦畔表土まきだし 1 年後の植生．澤田佳宏（兵庫県立淡路景観園芸学校／兵庫県立大学）

P21　武蔵野の平地コナラ二次林における種多様性保全を目的とした林床植生管理の効果．矢口　瞳（東京農工大学）・星野義延（東京農工大学）

P22　二次林下層に生育するコシダの分布特性および木本類の更新に及ぼす影響．臼田好希・山本真衣奈・井戸里奈・肥後睦輝（岐阜大学）

P23　夏期の陽性草本の繁茂は春植物ニリンソウの生育に影響を与えるか？　大塚勇哉（明大院・農）・倉本　宣（明大・農）

P24　奄美大島の河川下流域における帰化植物の定着状況．川西基博・安田真吾・横田圭祐（鹿児島大・教育）

P25　渓畔林の林床植生に及ぼす渓流攪乱の影響．伊藤菜美（新潟大学大学院自然科学研究科）・崎尾　均（新潟大学農学部）

P26　北海道のミズナラ林の 30 年間の種組成の変化．星野義延（東京農工大学大学院農学研究院）

P27　夏緑広葉樹林におけるマイマイガの大発生で生じた誘導防御反応の標高および樹種間の差．塩崎暢彦・武生雅明（東京農大大学院・林学専攻）・瀧本りりこ（東京農大・森林総合科学科）

P28　日本の森林植生の群落体系の整理―ブナクラス；ツガオーダーについて―．鈴木伸一（東京農大短期大学部）・中村幸人（前東京農大）・村上雄秀（国際生態学センター）

P29　照葉樹林における台風被害の程度に影響する樹木・地形的要因．本江大樹（筑波大院・生命環境）・齊藤　哲（森林総研）

P30　只見ユネスコエコパーク沼の平の森林植生．崎尾　均（新潟大学農学部）・伊藤菜美（新潟大学自然科学研究科）・中野陽介（只見町ブナセンター）

P31　スギ人工林伐採跡地における不均一な植生分布．溝口拓朗（宮大農）・伊藤　哲・平田令子・松倉百花

P32　都市林・熱田神宮林における植生の変遷．橋本啓史・今川公揮・松浦文香・多和加織・都築芽伊（名城大）・長谷川泰洋（なごや生物多様性センター）

P33　三宅島 2000 年噴火跡地の植生発達段階ごとのハチジョウススキの光合成特性．張　秀龍（筑波大学生命環境科学研究科）・上條隆志（筑波大学生命環境系）・廣田　充（筑波大学生命環境系）

P34　山口県周防大島の植生．森定　伸（(株）ウエスコ）・佐久間智子・佐藤克典（中外テクノス（株））・波田善夫（岡山理大生地）

P35　三宅島火山荒廃地における遷移初期植物種の葉の栄養塩特性．二木隆裕（筑波大・生命環境科学研究科）・上條隆志・山路恵子（筑波大・生命環境系）

P36　長野県の生態系影響・適応策評価技術開発．松井哲哉・中尾勝洋（森林総研）・高野（竹中）宏平・尾関雅章・堀田昌伸・須賀　丈・浜田　崇・栗林正俊・黒江美紗子（長野県環境保全研）・大塚孝一（元長野県環境保全研）・松橋彩衣子・津山幾太郎（森林総研）

P37　長野県における竹林分布の将来予測と自然環境要因および人間活動の影響評価．相原隆貴（筑波大学・山岳科学学位プログラム）・高野（竹中）宏平（長野県環境保全研究所）・立花敏・上條隆志（筑波大学・生命環境系）・大橋春香・松井哲哉（森林総合研究所）

P38　北アルプス北部でイノシシによる掘り返しを受けた高山植生．尾関雅章・堀田昌伸（長野県環境保全研究所）

P39　エゾシカが林床植生に与える影響．加藤華織（北大大学院農学院）・冨士田裕子（北大 FSC 植物園）

VIII.　会員移動（2017 年 5 月から 2017 年 11 月まで）

1.　新入会員（*学生）

伊藤　菜美*　新潟大学大学院　自然科学研究科
元廣はるな*　北海道大学 大学院農学院　修士課程
渡辺　智美*　北海道大学農学院
矢口　　瞳*　東京農工大学大学院　植生管理学研究室
ヌルビヤ　マイマイティ*　東京農工大学大学院　農学研究院
張　　秀龍*　筑波大学大学院　生命環境科学研究科
大塚　勇哉*　明治大学大学院　農学研究科　農学専攻 応用植物生態学研究室
中島有美子*　東京都市大学大学院
桂　　征駿*　東京農工大学大学院　農学府　自然環境保全学専攻
加藤　華織*　北海道大学農学院
長田　美保*　広島工業大学　大学院　工学系研究科　環境学専攻
溝口　拓朗*　宮崎大学大学院　農学研究科　森林緑地環境科学コース
本江　大樹*　筑波大学　生命環境科学研究科　生物資源科学専攻
二木　隆裕*　筑波大学大学院　生命環境科学研究科　生物資源科学専攻
山田　啓介　八千代エンジニヤリング株式会社　大阪支店　環境部　技術第一課
髙橋　健吾*　筑波大学大学院　生命環境科学研究科　生物資源科学専攻
相原　隆貴*　筑波大学　生命環境科学研究科　山岳科学学位プログラム専攻
村井　貴幸*　筑波大学院　生命環境科学研究科　生物資源科学専攻
塩崎　暢彦*　東京農業大学大学院　農学研究科　林学専攻
守下　克彦*　東京農業大学大学院　農学研究科　林学専攻

2.　退会

長谷川匡弘，小山千穂，鈴木英治，松田貴子，大西史豊，梅原洋貴，菅原亀悦，嶋　淳史，井上恵理，井上香世子，森山舞奈，松井美咲，新山　馨，太田望洋，建元喜寿，宮脇　昭，土田勝義

3.　宛先不明

片桐浩司，奥田　賢，仲山真希子，前川恵美子，羽二生亜衣，黛　絵美，本川悠平，増田知美，牧口陽介，守　容平，二神良太，森　英樹，秋葉知律

訂　正

植生学会誌 33 巻 2 号（2016 年 12 月発行）に掲載した論文に誤りがありましたので，次のように訂正します．
原著論文: Tomohiro MARUYAMA and Koji SHIMANO
“The vegetative environment for egg distribution of *Tongeia fischeri*（Eversmann）and the host plant, *Orostachys japonicus*（Maxim.）A. Berger in the Matsumoto Basin, Japan”

P56　左段　4 行目

（誤）　　（正）

$$H' = \sum_{i=1}^{n} Pi \log_2 Pi \quad \rightarrow \quad H' = -\sum_{i=1}^{n} Pi \log_2 Pi$$

There is a correction in the original article published in Vegetation Science, 33: 53-64.
The authors: Tomohiro MARUYAMA and Koji SHIMANO
The title: The vegetative environment for egg distribution of *Tongeia fischeri*（Eversmann）and the host plant, *Orostachys japonicus*（Maxim.）A. Berger in the Matsumoto Basin, Japan.

Page 56, line 4
The description of “$H' = \sum_{i=1}^{n} Pi \log_2 Pi$” should be “$H' = -\sum_{i=1}^{n} Pi \log_2 Pi$”